

研究機関名：下関市立市民病院

研究課題名：心不全患者における入院時の全身性炎症(mGPS)と Short Physical Performance Battery(SPPB)の関連

研究期間：2025 年 4 月 8 日～2025 年 10 月 12 日

対象材料：

- ☐病理材料（対象臓器名： ）
- ☐生検材料（対象臓器名 ）
- ☐血液材料
- ☐遊離細胞
- その他（ 診療録 ）

上記材料の採取期間：2023 年 3 月～2025 年 3 月

意義：

心不全は高齢化の進行に伴い罹患率の増加が問題となっている慢性疾患である。また、心不全は急性増悪を繰り返しながら最終的に死に至る病みの軌跡をたどり、退院後の再入院率が非常に高いことが臨床上の課題として挙げられ、身体機能や QOL（生活の質）の低下、予後に深く関与している。これまでの研究では全身性炎症の指標である modified Glasgow Prognostic Score(mGPS)が心不全の予後予測因子として有用であることが示されており(Komiya ら、2020)、また、身体機能評価指標である Short Physical Performance Battery(SPPB)は高齢心不全患者の長期予後や再入院リスクを予測する独立因子であると報告されている(Afilalo ら、2010;Nishida ら、2022)。これらの知見は、それぞれの指標が臨床的に有用であることを示唆しているが、両者の関連性については十分に検討されていないのが現状である。入院時の炎症状態を示す mGPS と、退院時の SPPB スコアとの関連を明らかにすることで、炎症マーカーに基づいた早期の身体機能低下リスクの把握が可能となり、入院初期からの適切なリハビリテーション介入を行ううえで有益である。

目的：

心不全患者における入院時の全身性炎症(mGPS)と Short Physical Performance Battery(SPPB)の関連を明らかにすること

方法：

当院の患者データベースおよび電子カルテより後方視的に通常診療の範囲内で得られる患者基本情報や医学的情報、治療経過、リハビリテーション経過、退院時の身体機能評価を診療録より収集する。

個人情報の取り扱い：

患者様の個人情報は、個人を特定できる情報とは切り離した上で使用する。また、研究成果を理学療法関連学会で発表するが、患者様個人を特定できる個人情報は含まない。

問い合わせ・苦情等の窓口：

〒750-8520

山口県下関市向洋町一丁目13番1号

下関市立市民病院 リハビリテーション部 平沼 侑花

TEL 083-231-4111 FAX 083-224-3838